

令和6年度 認定こども園服間の取り組みと評価

令和7年3月12日

当園において、今年一年の教育・保育や活動を振り返り、職員自らが自己評価を行いました。それぞれの評価結果をもとに、今年度の成果や課題、改善方策などを職員間で話し合い、園評価としてまとめました。今後もさらに充実した活動や教育・保育の資質向上に努めてまいります。

【成 果】

○教育保育内容全般について

・小規模園の特徴を生かし次のことを大切に、子ども主体の保育に取り組んできました。

- ① 子ども一人一人の年齢や発達を捉え、合同クラスや各年齢の保育、行事等を計画し実践する。
- ② 週に一度子どもの姿を語り合う時間をもち、子ども達が何に興味をもっているのか、どのようなことを学んでいるのか等を伝え合い共有する。

このことは保育の環境や子どもとの関わりについて常に意識しながら保育をすることにもつながり、子ども達と職員の成長につながりました。一人一人の思いをしっかりと受け止めていくことで、子ども達自ら遊びや生活の環境に関わる姿が増え、意欲や期待をもって活動ができるようになりました。

・友達とイメージを共有しながら遊ぶ姿が見られるようになり、お祭りごっこ、お店屋さんごっこ等同じ目標に向かって協力しながら楽しんでいました。また、異年齢での関わりも増え、思いやりや譲り合いの心を育むことができていきました。



○保護者や関係機関との連携

・日々の幼児期の生活や遊びの様子、クラスだより、行事等の写真等をコドモン配信しました。連絡帳や送迎時に子どもの成長した姿を丁寧に伝えたり一緒に喜びを共有したりするよう心掛けました。

・保育カウンセラーや保健師訪問の際に、発達に合った援助の仕方や家庭支援の在り方について、具体的な手立てを学びました。また、保護者面談を行い、子ども達に合った関わりを共有することもでき、家庭と園が子どもの育ちやよりよい援助について話し合い、子ども理解に努めることができました。

○小学校との交流

・小学校の授業であるおもちゃランドやマラソン大会の応援、体験入学等を通して交流を行いました。小学生のお兄さん、お姉さんが優しく関わってくれたことはとても嬉しかったようで、小学校への憧れにもつながりました。

また、園で育てた野菜を使ってクッキングを行い、小学校の先生や調理員さんにも試食してもらいました。お隣り同士だからこそできる交流なので、今後も継続したいと思っています。



○地域との触れ合い

・近所の畑を借り、畑づくりや苗植え、収穫を祖父母の方や地域の方と一緒にいき 野菜の生長を見守ることができました。



- ・文化祭の参加（作品展示、舞台発表）や郵便局訪問（年賀状購入）等では、子ども達が地域に出かけ、地域の方と交流を持つことができた。
- ・子育て支援では、月2回の園開放日に気軽に遊びに来てもらえるように声掛けをしたことで、定期的に来園する親子が増えました。



【課題】

- ・子ども達の主体的な遊びや学びに向かう力を育むために、遊びのきっかけづくりや次につながる環境の在り方について話し合いをし、保育者が主体性をもって教育・保育を行うこと。
- ・コドモン配信、ドキュメンテーションの掲示にあたり、子どもの学びや育ち、子どもの関わりについて保護者に気づきを伝え合えるような場をつくっていくこと。
- ・地域（在宅）の子ども達や保護者への子育て支援を行うため、地域の身近な遊び場として、また、相談機関として役割を担っていくこと。
- ・緊急時の対応について、具体的な対策や地域との連携を明確化すること。
- ・園と小学校の相互の理解を深め、小学校教育への円滑な接続、連携を継続すること。

【来年度の園経営、教育・保育活動における改善方策】

- ・子どもの人権を踏まえ、子どもの主体性や発達を踏まえた環境の再構築、保育者の援助など具体的な視点を持って職員間で話し合い、共通理解に努めます。
- ・園と家庭が連携して子ども理解を深めていけるよう、コドモン配信、ドキュメンテーションをより分かりやすく、読みやすいものにし、学びを伝え合えるような場をつくっていきけるようにしていきます。
- ・地域に根付く子育ての拠点となるように在宅の保護者ともつながっていきけるような活動を工夫していきます。
- ・災害時や不審者の避難訓練、緊急時の対応の仕方について職員間で共通理解を行い、安心安全に努めていきます。
- ・小学校との交流を深めるため、感染症罹患者の情報共有、保育参観や授業参観など職員間の連携、話し合いの時間を持つことを継続していきます。

